

ネパール地震緊急救援活動 ～資機材輸送～

主事 河合 謙佑

2015年4月25日に発生したネパール地震に対して、日本赤十字社は緊急救援医療チームを現地に派遣し、診療活動を行いました。今回、私は医療チームが活動するために必要な資機材ならびに医薬品を活動地まで輸送する専門要員として派遣されました。

■ 医療チームと資機材

はじめに、日本赤十字社の医療チームについて簡単に説明します。緊急事態、大規模災害発生時に派遣される医療チームのことを、ERU (Emergency Response Unit, 緊急対応ユニット) と呼びます。ERU は訓練された専門家チームおよび資機材で構成されており、被災地において当面 1 ヶ月間、他からの支援を得ることなく自己完結型のチームとして活動を行うことができ、その後は最長 4 ヶ月間、活動を維持することができます。

活動を支える資機材は、次の通りです。

発電機関係、照明関係、通信関係、事務関係、工具関係、テントおよび住居関係、キッチン関係、食料関係、給水関係、衛生関係、診察室関係、外科関係、薬局関係、母子保健関係、予防接種関係など



梱包された資機材

非常に多種多様な物品で構成されていることを、ご理解いただけたかと思います。日本赤十字社では、これらの資機材を 2 セット保有しており、本とドバイにそれぞれ 1 セットずつ備蓄し、いつでも輸送出来るよう常に整備されています。

さて、今回のネパール地震に対する資機材ならびに医薬品ですが、資機材はドバイから輸送されました。数量は木箱 29 ケース、ケージ 59 台であり、総重量は 18 トンに及びました。また、資機材に含まれていない医薬品は、オランダのアムステルダムからドバイ経由で輸送され、数量は段ボール箱 29 ケース、総重量は 1 トンでした。



診療所、事務所、住居などテントの用途は多彩

■ 限られた輸送路

ネパールは内陸部に位置し、国外からの輸送路は空路と陸路です。空路では唯一の国際空港がカトマンズ空港であり、陸路では多くの道が山岳地域を通っています。ネパールでは80年に1度巨大地震が発生し、近年のうちに次の大地震が発生すると言われていました。その際、輸送路が寸断され、首都カトマンズは孤立するとも予想されていました。

今回の地震では、カトマンズ空港はかろうじて被害を免れましたが、陸路では土砂崩れなどで多くの道が寸断されました。そのため、国外からの援助隊や緊急救援物資の輸送は空路がメインとなりました。

■ 航空機争奪戦とカトマンズ空港

空路がメイン輸送路となったことで、世界中から飛行機の確保が殺到しました。カトマンズ空港は規模が小さく、また定期運航便の数も少ないことから、それらの貨物スペースは瞬時に埋まってしまい、どの便も2週間は満載状態となりました。そのため、多くの救援物資がチャーターされた貨物機でネパールに輸送されました。日本赤十字社の資機材も、総数および総重量が膨大であるため、チャーター機を手配してドバイから空輸しました。



資機材を搭載したチャーター機（貨物専用機）

一方、カトマンズ空港は世界中からの人とモノの流入に対応しきれない状態に陥っていました。滑走路は1本のみで、一度に駐機できる飛行機は6機のみです。ちなみに、国内線のみ使用の大阪国際空港（伊丹空港）では滑走路が2本あり、数十機が駐機可能です。カトマンズ空港に併設されている貨物倉庫も相応の大きさしかなく、到着した物資が滑走路脇に積み上がっていました。このため、飛行機の争奪戦とともに、カトマンズ空港着陸枠の争奪戦が始まりました。定期航空便をはじめ、民間チャーター機、軍用機など多くの飛行機が、限られたカトマンズ空港着陸枠の確保に殺到しました。空港上空まで飛来してきた飛行機が着陸枠を確保出来ず、周辺諸国に引き返す事態も起こっており、我々が搭乘していた定期航空便も、隣国のバングラデシュに引き返し、2回目のアプローチでカトマンズ空港に着陸できました。

■ 情報収集

災害直後は、状況が刻一刻と変わります。そのため、情報収集は欠かすことができません。昨日の情報がすでに古いことは多々あり、内容によっては一日に何度も確認する情報もあります。それらの情報の中で、資



余震のため屋外で打ち合わせ

機材輸送に関して最も重要な情報が、「安全」に関するものです。安全に資機材を活動地まで輸送することが、輸送の専門要員に課された最重要ミッションです。情報は現地輸送会社、各国赤十字社、国際赤十字連盟、他の援助団体などから収集しました。また、医療チームの活動地は山岳地域であったため、道路状況や危険箇所、警察や軍のチェックポイント、通過する村々の被害および支援状況などを調査するために、実際の資機材輸送で使用するトラックを事前に走らせ、より詳細な情報の収集も行いました。

■ トラック 10 台、四輪駆動車 4 台のコンボイ（車列）

18 トンもの資機材を、カトマンズ空港から活動地までいかに安全に輸送するか。事前調査や収集した情報から、一度にトラック 10 台で国内輸送を実施しました。トラックの台数が少ない方が効率良く、また危険リスクを抑えて輸送出来ますが、山岳地域の道路状況から大きなトラックを選択することは出来ませんでした。また、複数回に分けての輸送も検討しましたが、カトマンズ市内に資機材を安全に保管するスペースを確保出来なかったため、一度に輸送することを決定しました。



赤十字旗を掲げたトラックの車列

トラック 10 台を一度にコントロールすることは困難なため、5 台ずつ 2 グループに分け、各グループの車列の前後に四輪駆動車を配車し、四輪駆動車には無線機を配備して情報共有を徹底しました。

予想される所要時間は 6 時間。カトマンズ市内の渋滞と、不測の事態を考慮し、早朝 6 時に輸送を開始しました。途中、警察のチェックポイントにて 30 分間の足止めがありましたが、トラックの故障や事故、また資機材の破損なども無く、無事に目的地まで輸送することが出来ました。

10 台のトラックに掲げられた赤十字旗を見たときに、私たちの活動は日本をはじめ世界中から支援して下さる方々に支えられていることを、再認識させていただきました。

引き続き、皆さまの温かいご支援とご協力をお願いいたします。